

## 仕事とは？

一生懸命することが、相手の役に立ち、自分にも役に立つ

文王と太公望の釣りの話

あなたのために演奏することが、聴衆のためでもあり、自分の喜びでもあるような生き方を探すことね(リユース)

第 96 回勉強会  
(2023 年 6 月 14 日)

内外経済および沖縄経済の動向

講 師 日本銀行那覇支店長 飯島 浩太 氏  
紹介者 代表理事 与世田兼稔氏、竹下勇夫氏(参加者 27 名)

【ご講演の概要】

現在、世界経済には、グローバル・インフレ、米国シリコンバレー銀行の破綻に端を発した金融システムへの懸念、ロシアによるウクライナ侵攻の継続など、引き続き、様々な不確実性がある。

日本経済は、人手不足と物価上昇のもとで、賃上げの動きが強まっている。今後、賃金上昇を伴いながら、緩やかに物価が上昇するという好循環が持続するかは重要なポイントである。(前半、内外経済を巡る論点)  
沖縄経済については、まず、最近の情勢を詳しく説明し、さらに、少し長い目で見た当地経済の動向について概観する。そのうえで見えてくる沖縄経済の持続的な成長の実現に向けた課題について、重要と考えられる点を解説する。(後半、沖縄経済の動向)

受講記と感想 (事務局)

聴講しながら、印象的だったこと、示唆を受けた点等を要約してみた。  
**賃金と物価の相互関連メカニズム(レジュメ 16 頁)**を最近の動きの中で説明を受けた時、先ず、原材料価格の上昇に伴い CPI(消費者物価指数)が上昇する。これは個人消費の緩やかな増加をもたらす。  
次に、人手不足・転職増加などによる賃金の上昇が起きる。それは個人消費の緩やかな増加を伴い、値上げの広がりや物価上昇(売上)を招く。物価(売上)が上がり、賃金(人件費、原価)が増加する。そしてこの動きは、次の物価(売上)上昇の原因となる。  
会計的に説明すると、売上増－人件費(原価)増－利益(付加価値)増の循環である。



この動きが反復継続するか、一過性で終わるか、特に次の物価上昇につながるかがポイントである。人件費(原価)の上昇が利益を食いつぶすならば、この動きは停止する、反復継続させなければならない。

停止しないためには、人件費(原価)生産性の向上(利益の up)が必要である。それが、一過性でなく、継続して、利益増、望ましい方向に進めば2%の物価上昇の継続も無理がなく、経済は質的に拡大することができる。

しかし、物価上昇と賃金の上昇は短期的であり、生産性の向上は中期的であるため生産性の向上の努力が必要である。

また、(2%の)物価上昇は、政府、金融の発するものでなく、それはきっかけであり、民間の主動によるものではなくてはならない。このあるべき傾向の突破と継続は作為、操作(政府、金融)ではなく、実質(民間主導)である必要がある。民間主動の意気と工夫努力がエンジンであり、主動力である。この突破力の継続が物価上昇の循環を一過性のものでなく、継続させる。そして、日本経済が強化される。現在、日本経済はその入口に来ていると考える。

バブル後の停滞、デフレの継続は、あるべき官の役割と民の役割の誤解にあると思う。この循環(感覚)を改める必要がある。

景況の戻った現在はそのチャンスである。

そのための条件、すなわち、民の、併せて官の意識改革、生産性の向上のためには(少し飛躍、全国ベースから沖縄経済へ)、**沖縄経済の持続的成長(レジュメ 37 頁)の実現に向けた課題**の解決が重要である。

すなわち、持続的成長を実現するための基本的な視点、これは継続的な民の意識改革と官の適切な役割を基礎にして、意識的な課題として、

(1) 自律型経済の実現が重要

(2) 基幹産業である観光をさらに伸ばしていくことが大事

観光の振興はこれまで大きく成功しており、県内の他の産業への波及効果も大きい。

(3) また、新たな産業の裾野を拓げることは経済の強靱性を高める。

特に、情報通信産業、国際物流拠点、開業率が高い外からの流入、スタートアップ等が期待される。

沖縄経済は、意識して、自主的に自らの特色、可能性に対して、自らの力によってピンチもチャンスと考え、可能性の実現に向かった持続的成長の実現を果たす気概を持たねばならない、今はそのチャンスである。

今朝のラジオニュースで、FRB の政策金利据置と今週開催される日銀金融政策決定会合で現状維持の予想、近いうちの長短金利操作(YCC)の修正、撤廃の予想が流れた。

**組織(機関)は人の為に一生懸命にすることが組織自体の役に立ち、人(民間)は組織の為に一生懸命することが人自身のために役立つと思う。**

差出人: yamauchi masaki masaki\_yamauchi@hotmail.com

件名: リューバ 青年は荒野を目指す (五木寛之)

日付: 2023/06/19 19:21:07

宛先: masaki\_yamauchi@hotmail.com

考えたことは、今までに一度もなかったんだ」 リューバが、かすかに笑った。

彼女はジュンの首に腕を回して、彼の耳もとに、ゆっくりと囁いた。

「あなたの悩みと、おんなじことをわたしも考えたことがあるわ」

「それで？」

「その問題は言葉で理論的に解決できない問題だとわかったわ。しいて言えば、あなたのために演奏することが、聴衆のためでもあり、逆に相手のためにやるのが、自分のよろこびでもあるような、そんな生き方を探すことね」

「そんな事が、この世の中にあるかね」 「あるわ」

「たとえば？」 リューバは、ジュンの手をとって、静かに引きよせた。彼は、自分の指が、温かく豊かな感触の中に溶けるように沈みこむのを感じた。

「パチェルーイチェー」 と、かすれた声でリューバは

「カーク？」 「ハラショー」 「わたしもよ。どう？  
これはあなたのための行為？ それともわたしのためのキス？  
どっちでもないわ。これがさっきの答よ」

キザだな、と思いながらジュンは言った。「さっきの演奏は、おれが生まれてはじめてやった他人のための演奏だった。そいつをプレゼントしよう」 「スパシーボ」